

研究業績背説明書

法人番号	77	法人名	熊本大学	学部・研究科等番号	29	学部・研究科等名	大学教育機能開発総合研究センター
------	----	-----	------	-----------	----	----------	------------------

1. 学部・研究科等の目的に沿った研究業績の選定の判断基準【400字以内】

研究センターは、高等教育における教育システム、教育手法、教育カリキュラム等における調査研究を遂行し、得られた研究成果を高等教育関連学会等に公表することで、高等教育の発展及び熊本大学の教育のより一層の改善充実を目指している。そのため研究業績選定の判断基準は、「人と社会(社文系)の科学」に関する研究業績の判断基準に従い、「教育システム情報学会誌」「日本教育工学会論文誌」「高等教育学会誌」「大学教育学会誌」「日本比較教育学会誌」「大学英語教育学会」「全国「日本教育制度学会紀要」に掲載された研究業績を「Aの基準」とし、その中で学術的意義、社会・文化的意義の高い業績を選定する。

2. 選定した研究業績

業績番号	細目番号	細目名	研究テーマ及び要旨【200字以内】	代表的な研究成果【最大3つまで】	学術的意義	社会的意義、経済的意義	判断根拠(第三者による評価結果や客観的指標等)【400字以内。ただし、「学術的意義」「社会、経済、文化的意義」の双方の意義を有する場合は、800字以内】	重複して選定した研究業績番号	共同利用等
1	4201-4204	教育学	合田美子: eラーニングにおける教育改善および学習支援 eラーニングにおける教育改善を促進するための教育評価、学習者の主体的な学習支援のための自己調整学習理論、インストラクショナルデザイン、学習科学と協調学習、教育工学の知見から、学習支援手法のモデル化を行い、学習環境としてシステムの開発と運用方法の研究を行っている。システム上に蓄積される学習ログを活用したラーニングアナリティクスを採用している。	1.合田美子, 望月俊男, 野口新司, 松田岳士, (2012).eラーニングプロジェクトにおけるPDCAサイクルを実現する科目密着型評価の実践. 教育システム情報学会, 29(1), 26-38. 2.合田美子, 山田政寛 (2012). 海外のリメディアル教育におけるeラーニングの研究動向と適用. 応用される学習理論. リメディアル教育研究, 第7巻, 第2号 特集号「英語教育におけるeラーニング:過去, 現在, 未来」, 19-29. 3.Goda, Y., Yamada, M., Shimonishi, K., & Wakita, S. (2011). Design of Cross-Breeding Diversity Support System for CSCL. 2011 IEEE International Conference on Technology for Education, 225-228.	S	S	成果1は、Aの基準である「教育システム情報学会誌」に掲載され、評価を得ている。また、関連研究は、第35回全国大会教育システム情報学会において研究奨励賞を受賞している。成果2は、国内外のeラーニング研究動向をメタ分析し、A基準である「リメディアル教育研究の特集号」に掲載され、教育工学の分野の研究成果の普及に貢献した。成果3は、H21年～H23年度科研研若手B(21700830)「創造性、イノベーションの顕現機会の予測指標とコミュニケーション支援システムの開発」の研究成果である。本研究テーマでの研究は、さらに、H26年度科研基盤B(26284079)「ファンリテータ支援モデルに基づいた多国籍協調学習システムの開発と評価」の採択に寄与した。以上の根拠により当研究を「S」区分と判断した。		なし